

わたしたちの未来のために、まず“今”を見直してみませんか

ますます高齢化の時代。

たとえ要介護状態になっても、できる限り暮らし慣れたわが家で生活したいですね。

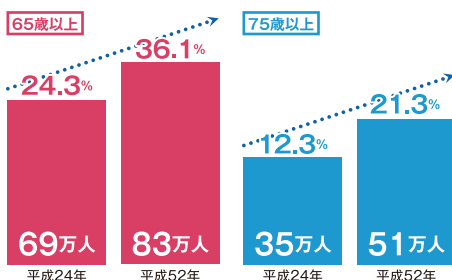
そのためには、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉による「ケアのしくみ」が必要です。

まずは、今なにが起きているのかについて考えてみましょう。

1 これからの広島、どうなるのだろうか？

人口は増加のピークを過ぎ、ゆるやかに減少に向かいます。約50年後には総人口9000万人を割り込み、高齢化率は40%近くに。とりわけ都市部に人口が集中し、人口が減少する中山間地域では、集落維持が課題となります。

広島県の高齢化率の推移



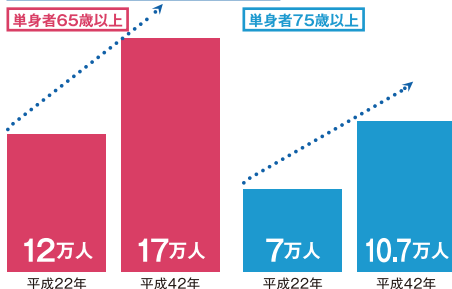
30年で
約1.5倍高齢化が進みます

※総務省から平成24(2012)年8月に公表された住民基本台帳に基づく。
※平成27(2015)年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成24(2013)年推計)による。

2 家族の姿はどう変わるのだろうか？

人口は減少するものの、世帯数は増加します。とくに高齢者世帯には夫婦二人暮らしや一人暮らしが多くみられます。

広島県の高齢者世帯の推移

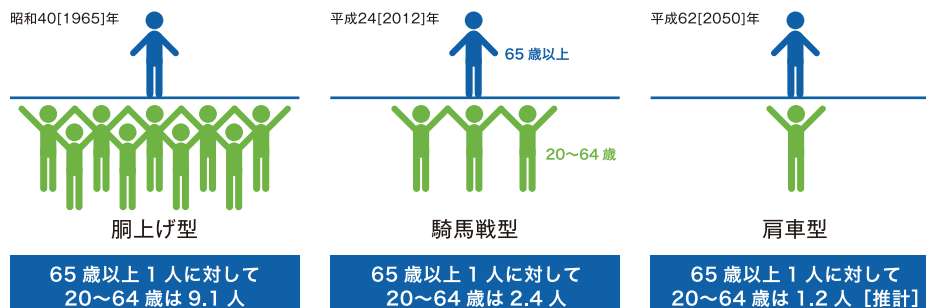


20年で、一人暮らし高齢者数が
約1.5倍に増加します

※平成22(2010)年までは国勢調査による。
※平成27(2015)年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成21(2009)年12月推計)による。

3 誰が支え手になるのだろうか？

今後、急速に高齢化が進み、やがて、「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れます。支え手をどう確保すればよいのでしょうか。

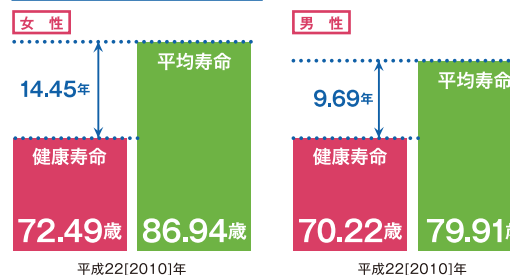


※総務省「国勢調査」、社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位・死亡中位)、厚生労働省「人口動態統計」による。

4 健康で長生きしたいものだ

「健康寿命」とは、介護を受けたり寝たきりになったりせずに、健康な日常生活を送れる期間のこと。「健康で長生き」のバロメータです。平均寿命と健康寿命との差とは、不安や暮らしにくさのある期間。ここを短くしたいですね。

健康寿命と平均寿命の差



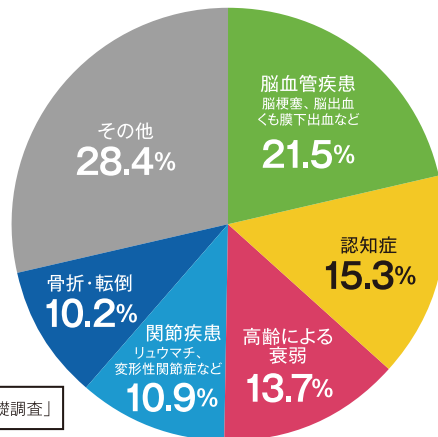
※健康年齢は、「健康年齢の算定方法の指針(平成24年9月厚生労働科学研究)」をもとに、国民生活基礎調査から厚生労働省が算定した広島県平均値。

か？

5 何が原因で、要介護状態になるのだろうか？

介護が必要となった主な原因は、要介護者では「脳血管疾患(脳卒中)」が21.5%で最も多く、次いで「認知症」が15.3%となっています。脳血管疾患は男性に多く、女性は転倒による骨折が多いようです。また要支援では、「関節疾患」が最も多くなっています。

介護が必要になった主な原因の構成割合

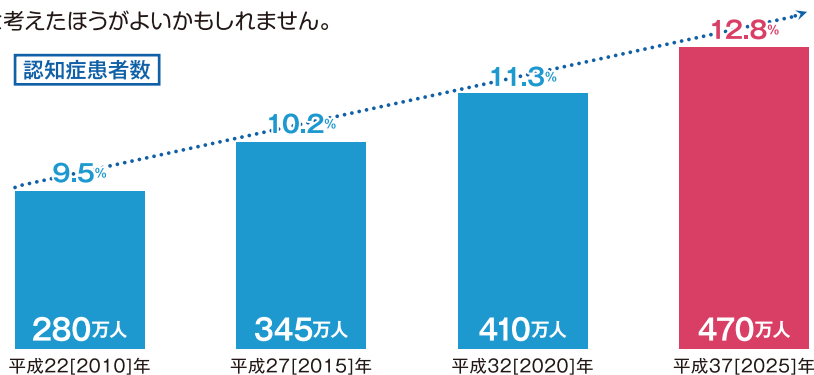


※厚生労働省「平成22年 国民生活基礎調査」

6 認知症がますます増えるらしい。

認知症の有病率は、65歳以上で9%、85歳以上で27%に達します。つまり、65歳以上の方の約10人に1人が、85歳以上の4人に1人が認知症になるということになります。認知症は、誰もがかかりうる病気と考えたほうがよいかもしれません。

認知症患者数

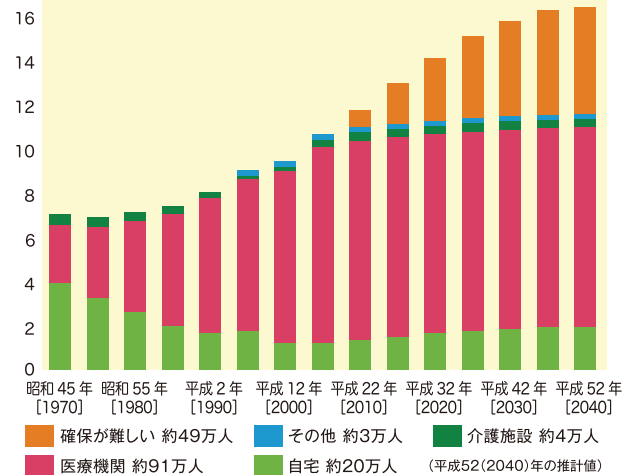


※将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所:H24.1推計。死亡中位出生中位)に、上記1の算出方法による平成22年9月の認知症高齢者割合を性別年齢階級別に乘じて推計

7 看取りの場はどうなるのだろうか？

現在8割の人が医療機関で看取られています。しかし今後、看取りの場所を確保することが難しいといわれています。

[万人]



※平成16(2007)年までは「人口動態統計」、以降は「将来人口推計」に基づき推計

ご存知ですか？ 4大死因

- 1 悪性新生物(がん)
- 2 心疾患
- 3 脳血管疾患
- 4 肺炎

肺炎で死亡する人の9割以上が65歳以上の高齢者。食べ物や唾液に混じって細菌などが肺まで到達し、炎症を起こす誤嚥性肺炎が多いので注意が必要です。

わたしたちの“今”

人口減少とともに高齢者が増加する日本。元気で長生きを願い、疾病や衰えと向き合いながらの暮らしとなります。よく生き、よく逝くためには、どうしたらいいのでしょうか？

